# 休日出勤と社員の温度差

**社員研修マンガ教材**

ビジネスケーススタディ
紙芝居

こちらは、Ａ部長です。
Ａ部長は、デザイン会社のデザイン制作部の管理職です。
このＡ部長、実は、悩んでいることがありました。

『最近、業績が上がってきて、ありがたいことだけど、社員さんの休日出勤が増えちゃっているんだよなぁ。
やっぱり、健康が一番大切だから、社員さんにはしっかり休んでもらいたいんだけど、この大変なご時世に仕事があるっていうのはありがたいことだから、難しい問題だよなぁ。
最近は働き方改革もあるし、なるべく効率的に働くべきっていうのはあるけど、もちろん、適切かつ必要な労働はＯＫだけれど、バランスが難しいよなぁ』

こちらは、Ｂさんです。Ｂさんは、Ａ部長の部下です。
Ｂさんはとても優秀で、デザイン制作の仕事が早く、しかも仕事のクオリティが高いと社内で評判でした。
最近、仕事がとても忙しく、休日出勤も連続しています。

『はー、全然、仕事が終わらないよ。なんでか僕ばっかり、すごいたくさん仕事任されてる気がするんだよなぁ』

ちょうど、A部長が社内に戻ってきました。

『おお、Bさん、今日も休日なのに、本当に、おつかれさまです。健康を第一にして、なるべく休んで下さいね』

『あ、はい、A部長、わかりました。お気遣いどうもありがとうございます』

このときA部長はこう思っていました。

『うーん、やっぱりそうだ、Bさんすごい休日出勤してるなぁ。大丈夫かなぁ』

こちらは、C君です。C君は入社一年目の社員であり、まじめで頑張り屋さんでしたが、まだデザイン制作の仕事に慣れていませんでした。また、オンとオフをしっかり区別したい、休日はしっかり休みたいというタイプでした。

ある日、ちょうど、A部長が社内に戻ってきたときのことです。

『あ、A部長、お帰りなさい。A部長、自分、今日は仕事が終わったので、何か他になければ定時で帰ろうと思いますが、なにかありますでしょうか？』

『おー、Cさん、お疲れさまです。そうですね、早く帰れるときはどんどん早く帰って、休んでください。今日もお疲れ様でした』

この時、このＡ社長とＣさんのやりとりを、横で見ていたＢさんは、こう思っていました。
『なんだかなぁ。自分ばっかりたくさん仕事担当させられているのに、Ｃさんは毎日さっさと定時で帰るんだよなぁ。まあたしかに、Ｃさんは、まだ入社して時間がたってないから、配分される仕事が少ないっていうのはあるけどさ。なんだか、テンション下がるんだよぁ』

Ｄさん

他方、こちらは、Ｄさんです。Ｄさんも入社１年目の社員です。まだまだ未熟ではありましたが、早く成長して、バリバリ仕事をこなせるようになりたいという思いが強かったことから、積極的に仕事を担当させてもらえるよう、休日出勤もしてがんばっていました。

ある日のことです。ＤさんはＡ部長のところに相談に来ました。
『Ａ部長、すみません、今度の新規プロジェクトも、自分に担当させてもらえないでしょうか？』
『えっ、ちょっと、Ｄさん、やる気があるのはとても良いことですが、今でも、結構仕事を抱えていますよね。休日出勤もしているし。そんなに担当したら、休めなくないですか？』

Ｄさん

『いえいえ、まだまだです。自分、早く成長したいので、もっともっとやらせてもらいたいんです。休日出勤になってしまうかもしれませんが、どうか、お願いします』

『わかりました。しかし、健康第一で、お願いしますよ』

『はい、ありがとうございます』

　このやり取りを近くで聞いていたＣ君は、内心、こう思っていました。

『僕だって、どんどん仕事させてもらって、早く成長して、会社の戦力になりたいけれど、実家の家族の介護もあって、Ｄさんみたいに、休日出勤までしてバリバリすることは、今はできないんだよなぁ。僕って、会社にいちゃいけない人間なんだろうか・・・』

　このように、Ｃさんは、仕事のモチベーションが下がってしまいました。
　そして、ある日のことです。
　Ａ部長が社内に戻ってきました。
　そのとき、Ａ部長は、社内の様子、雰囲気を見て、こう思いました。

『あれれ、なんだか、Ｄさんは休日出勤も多いのに、すごいモチベーション高く働いているのに対して、同じく休日出勤の多いＢさんはかなりモチベーションが下がっているようだ。他方、休日出勤がほとんどないＣさんもかなりモチベーションが下がってしまっているみたいだ。
　なんだか、社内ですごい温度差があるみたいだ。いったい、この温度差は、いつの間にできてしまったんだろう・・・なぜなんだー』

＜参考＞
「社員のモチベーションに差がある・・・」
「人によって希望する働き方の違いがある・・」
というよくあるお悩みについての物語をマンガ形式でお伝えしました。
　いろいろな考え方があるところであり、一律の正解はないと思われます。であるからこそ、お互いに話し合ってコミュニケーションを深めることが重要と思われ、その際の題材として活用していただければ幸いです。